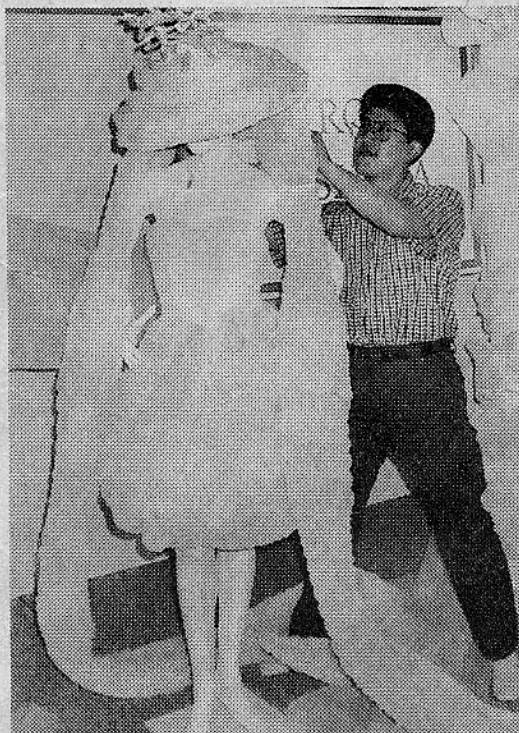


有松絞りのウエディングドレス

職人ら新分野に挑戦

技法駆使、鮮やかな出来

中期間まつり
公開で寺園祇



技法をこらした絞りのドレス

伝統的な有松絞りが生む、美しく細かな模様をあしらった純白のウエディングドレスが五日、緑区有松町で開幕する「第九回有松絞りまつり」(同まつり実行委主催)にお目見えする。絞りという昔ながらの技法と、合成繊維のポリエステルという新しい素材を結びつけたもので、挑戦した絞り職人たちは「絞りの新しい可能性を開いた」と意気込んでいる。

ドレスに絞りの模様をあしらったのは、同町往還北、久野剛資さん(三十五)ら六人。「今までにない、絞りを生かす可能性はないか」と考えていた昨年十二月、同町で開かれた「国際絞りの会議」

で、東京で活躍するファッションデザイナー、吉田ヒロミさんと知り合った。

話をするうち、服飾の分野でもウエディングドレスは商品価値が高く、絞りのドレスが一般に定着すれば、服飾の新しい流れになるという考えで一致。さらに、合成繊維は、過去に絞りの技法が使われていない素材で、絞りの活用範囲も広がる、製作を決めた。

吉田さんがデザインを担当、久野さんたちが、布地の表面を糸で絞るようにして、さざ波のようなしわを作る「木目絞り」、しわの一つひとつを際立たせる「みづら絞り」の技法を使い、ドレスに美しい模様を与えた。出来上がったドレスは、滑らかな布地と絞りのコントラストが鮮やかで、華やかな一面、純白の色が、清らかな雰囲気を出し、素晴らしい出来栄。

ドレスは、まつり期間中、同町の祇園寺で公開される。久野さんは「絞りは和装のものという従来の印象を破る作品になった。これからは、固定概念にこだわらず絞りの可能性を、有松全体で探っていきたい」と話している。

まつりは六日まで。皇太子さまのご成婚を祝う縦七段、横九段の織物が同町中町交差点に飾られ、吉田さんがデザインした絞り技法を取り入れた十二単(ひとえも、同町にある市文化財の「岡邸」で展示される。